

# ひょうごの ロングセラー

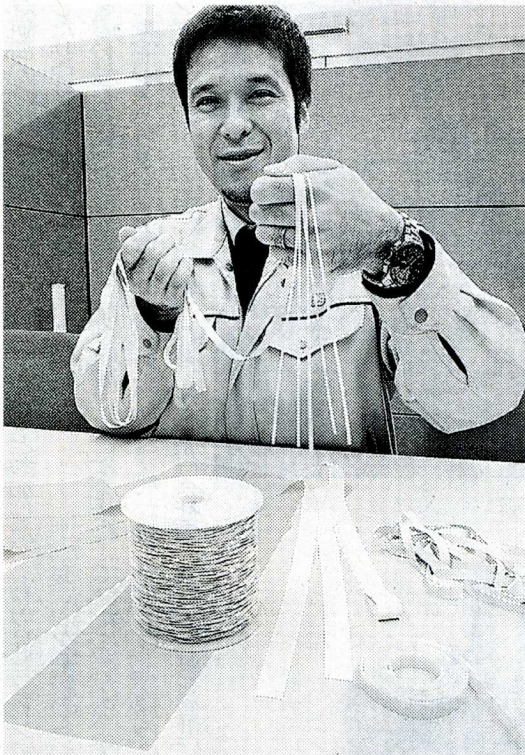
⑨1

糸のように細いから「糸ゴム」。0.15〜2ミリの細さでありながら7〜8倍は優に伸びる。伸縮ネット包帯、競泳用不着、紙おむつ、釣りの疑似餌……。多彩な製品の機能を支える優れモノ。その国内唯一の専業メーカーが、創業90年を越す丸榮日産（明石市）だ。

ミンシンの糸のようにゴピンに巻かれた製品は輪ゴムと見まがうが、「製法は全く

## 糸ゴム — 丸榮日産

# 専業の強み 色鮮やかに



色や性質が多様な糸ゴムやゴムテープ。「ほぐれ加減も、顧客の要望に応じて変えます」と丸山高史社長＝明石市硯町3、丸榮日産

違つと丸山高史社長(40)。ダンロップ護謨(現・住友輪ゴムが筒状のゴムを切断するのに対し、糸ゴムは薬品を混ぜ、幅1ミリ、長さ数百ミリのシート状に圧延した後、裁断する。

创业者は丸山社長の祖父、故繁治氏。大正時代、現存するメーカーは4社

あるが、「専業」の同社の強みは色鮮やかさ。鮮やかなピンク、蓄光機能を備えた「光るゴム」はその代表だ。糸だけでなく、幅のあるゴムテープもあり、数年前に流行した「巻くだけ夕イエット」のバンドも手掛

けたという。女性用競泳着の脇や首部分の部材では国内シェア9割超を誇る。作り手自身、用途が分かんないまま出荷しているケースもしばしば。「でも、なくなれば、お客さんが困るものばかり」。使命感と自負とともにオンリーワンの歴史を伸ばし続ける。

(広岡磨璃)

丸榮日産 1919(大正8)年、神戸市灘区で創業。戦後、丸榮ゴム工業所として長田区で再出発。69年、現社名に変更し、91年に現本社に移転した。生産拠点は岩美工場(鳥取県)。従業員46人、売上高約10億円。取引先は大手から町工場まで500社以上。

メモ